

## 大河原町まち・ひと・しごと創生会議

### 第4回会議

平成27年9月25日（金）

○事務局 ただいまから大河原町まち・ひと・しごと創生会議、第4回目の会議を開催させていただきます。

それでは、初めに会長の挨拶ということでひとつよろしくお願ひしたいと思います。

○尾形会長 皆さん、どうもお忙しいところ第4回目の会議にご出席をいただきまして、まことにありがとうございました。

3回までいろいろと事務局のほうから提案をいただきまして、それについて意見交換をしてみました。本日は第4回目の会議であります、全体の会議の数の上から考えますと、相当問題点と申しますか、中身を絞り込みに入るといふ時期ではなかろうかと、かように考えております。したがいまして、本日の会議に当たりましては、後で私のほうから進行関係につきまして申し上げますが、具体的な問題に点につきましてそれぞれご意見を賜るといふような形で進めさせていただきたい、かように考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、事務局、よろしくお願ひします。

（事務局より資料説明）

○尾形会長 ありがとうございました。

それでは、ただいまから意見交換に入りたいと思います。

まず、3ページにつきまして、ご意見、あるいはまたこうしたらどうかという意見、独自にご意見を尽くしていただきたいと思ひます。

1ページ目にあります総合戦略の全体像、これのしごとをつくり、安心して働けるようにするというくくりと、その下にあるくくり、新しい人の流れをつくる、これが3ページに入っております。4ページは若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、5ページが時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る、この箱が5ページ。最後の地域と地域を連携する、これが6ページ、こういうふうな形で文体が出されております。

3ページにつきまして、目標、方向性、施策とありますけれども、問題はやはり具体的な取り組み、そしてその脇にあります成果目標としていろいろありますけれども、中心的な意見交換の場所というのは、この具体的な取り組みの例、ここが意見交換の中心になるのではないかと申ひます。

したがいまして、そういう点につきまして、具体的なこの問題につきまして意見交換をしてもらいたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

○委員 一つ質問なんですけれども、国の総合戦略とか県の総合戦略もそうなんですけれども、雇用の創生のところが1番目という感じになっているかと思うんですけれども、そして2番目が新しい人の流れをつくるということになっておりますが、国も県も観光振興の部分というのは雇用創出のほうに項目としてあげられていると思うんですけれども、そのところ、大河原町さんであえて人の流れをつくるのほうに入れた趣旨とかはどういうことなんでしょうか、教えていただければと思います。

○事務局 やはり大河原町は桜のみの観光とよく言われまして、そういう部分からしますと、新たにやはり観光施設を建てたり、観光企業者が入ってくるというのはよろしいんですが、まずは通年観光という観光体制が整っていないという部分がありまして、まずは先にそちらのほうの通年観光を整えるべきということで、まずは大河原町の中にある観光にかかわることに関して、そういう受け入れ体制というのが先なのかなということで、人の流れのほうの受け入れを先に考えさせていただいたということです。

○委員 ということは、まず人の流れをつくるというのは、来訪者に重きを置きたいということですか。観光産業というか、そちらのほうの進展というか、そっちを考えるというんではなくて、まずは来訪者を呼び込むための基盤をつくるというような位置づけにするのが大河原町の考え方ということでよろしいですか。

○事務局 はい。やはりまず大河原町、町内にいらっしゃる方の利益というかそういうものだと思うんですが、そちらのほうの受け入れ体制は、機運とかやっぱりそういう部分を高めていく部分が先なのかなと思っていました。実際的に、桜まつりは25万人ということで4月だけ突出はしているんですが、実際的には、そこでもう観光客が来たとしても受け入れ体制としては、町としては、町内の商業者、また住民の方という部分では整っていない部分がございますので、まずは観光都市の初めの受け入れ体制が先なのかという部分で考えておりました。

○委員 わかりました。

あと、もう1点なんですけれども、全体像のペーパーなんですけれども、これの基本目標と基本目的というところありますけれども、ここの基本目標の設定ということあるんですけれども、例えば4番とか5番目については数値目標、ちょっと言いがたい部分があるかと思うんですけれども、そのところ、訂正目標の場合、客観的な指標を設定となっておりますけれども、これだと評価する際にどう評価すればいいのかわからなくなると思うので、もう少し明確化し

たほうが良いと思うんですが。

○事務局 健康増進が図られたとなると、5年によりまして医療費が削減されたとか、また介護認定率とか元気高齢者の数とかいろいろ数値とかはあるんですが、今のところちょっと絞り切れていないという部分。何かしらそういう目標立てとして、ちょっと介護認定率をあげてはいたんですが、その部分でやはりちょっと庁舎内、役場内でもまとまり切れなかった部分もありましたので、何かしら、元気高齢者か、または満足度調査のやっぱり意識の向上ぐらいしかなかなか見られないかなと思いましたので、何かしら顕著に見える部分があれば、ほかの市町村のもうできた総合戦略のKPIとか、また延長線としての基本的方向の数値をちょっと見てみたいと思います。

○委員 ちょっとこれだと評価の段階になると困ると思いますので、このところは何らかのわかりやすい工夫なり何なりについてもお願いします。

○事務局 高齢者の方の半分はそう感じているとか、そういう何かしらの数値をちょっと考えてみたいと思います。

○委員 通年観光のところなんですけれども、いわゆる国を挙げている訪日外国人の増加に対応するということで、多言語化の観光ホームページというところを書いていないので、これはぜひ入れるべきだなというふうに思います。柴田町さんのほうでことしタイの方の来訪がかなり多かったというので、聞くところによるとタイのほうで一目千本桜が紹介されていたというのがあって、それで特に多かったんではないかと分析されている方がいたので、今言いましたけれども、情報のあるところとやっぱり人が集まってくるというのがあるので、そういう意味では、これからアジアだと思うんで、英語は当然必要ですけれども、それ以外の多言語のホームページ、自動翻訳ではなくて、観光のページぐらいはきちっとした翻訳サイトをつくったほうが良いんじゃないかなというふうに思います。

あと、国の移住サイトと連携強化というところなんですけれども、先日、私、日経新聞のほうで見たのが、東京、ちょっとすみません、失念したんですけれども、記事を持ってこようと思って忘れたんですけれども、ある区が移住のアンケートをとっている区があって、約3割ぐらいの方が移住を検討しているというアンケートがあったんです。短期と週末だけとか完全移住とかそういうアンケートがあって、3割の方が興味があるというアンケートがあって、空き家とか移住サイトとかつくっても、ただできただけではだめで、そういう取り組みをしている首都圏、関西、中部の方にリサーチして、そこに大河原町としては一生懸命やりますよというふうな形でアプローチをかけたほうが、果たしかそのところは静岡をターゲットに考えているよ

うで、そういう意味では、情報があるところと先ほど言ったけれども、興味が向いていくと思いますし、そちらのほうが優位に立てると思うので、やっていないところが、一番最初ですから、そういう意味では、せっかくサイトを立ち上げてやっていくのであれば、より効果のあることを考えていかれたほうが良いと思うので。面倒言ってもだめだと思います。多分、そうやって移住、特に首都圏とか人が多くなり過ぎているので移住という話が結構今出ていますから、そういう取り組みをしている自治体さんのほうに声がけしていく、サイトをつくと同時に。情報がないと、ただ受け入れていますよと言ったって話が進まないと思いますから、まずそういうサイトを立ち上げた後にそういうことをやったほうが良いかなというふうに思います。

あと、通年観光、「まちの宝探し」ですけれども、これについては、現行のあるものもそうですけれども、つくることも可能かなというふうに思っています。前回もお話しましたがけれども、たしかスラムダנקの踏切、湘南の。ただの踏切に観光客が来るということなので、ここも大河原町、何かドラマであったりとかCMだったりとか、有名な鳥取の坂のCMで一気にそこに人が集まるということがあるので、何もないじゃなくて、つくることもできると思います。ただ、そういうアプローチも必要かなというふうに思います。

○尾形会長 ご質問というよりも提案、意見がありましたけれども、そういう今のような通年観光に関する問題というようなことについて、プロジェクトチームのほうに、こういうあれが出ているよ、出たよということで、じゃ、それを具体的に作り上げていくためにはどんなノウハウといいますか、それが必要なかというようなことをブレイクダウンする必要があると思うんです。ここでそれを承るというだけじゃなくて、それをプロジェクトチーム、いつまで存続させるかは問題がありますけれども、こういう意見が出たので、それを具体的に展開するとすればどんな手法があるかということプロジェクトチームのほうに引き渡して、具体的なシナリオをつくってくれというようなことを言う必要があると思うんです。だから、ここで質問が出た、はい、わかりましたと言うだけではなくて、そういうことも含めてやっていただければよろしいんじゃないかと。

○事務局 プロジェクトのほうは、原案を固めたということで、一旦は終了させていただいておりますので、今度は実際の担当課に、例えば通年観光となりましたら商工課、また移住ナビ関係ですと私たち企画財政課。企画財政課のほうも、国の移住ナビのほうには、ちょっとだけはつくったんですが、実際に大河原町としては何もまだ発信はしていない状況と同じでございますので、まだ取りかかりも入っていないということで、そういう部分も含めまして、やっぱり不足している部分を底上げしなくちゃいけないという気持ちで次から取りかかりたい。

通年観光も、実際的にはずっと通年観光とは言われているんですが、なかなかそういう部分で、春、夏、秋、冬、またその地域ごとにどのような部分で高めていきたいという部分がなかなか、主となるやっぱり住民の方、産業の方、やっぱりそういう部分での高まりというのも必要だということで、大河原町のほうはまだそういうふうなのはなかなか不足しているのでやっぱり力を入れていきたいというふうな、不足している部分をちょっと高めたい部分がメインとなっていることはありますので、担当課につきましてはこのような、今までの意見をいただいた部分も含めまして、10月初めの調整に関しては声がけして、参考にもしていただきたいとは考えています。

○尾形会長 通年観光と言えるかどうかわかりませんが、例えばいわゆる極端に言えば全方向対象にした不特定多数の方々においていただく、足を運んでいただくというものと、それから域内での人が、角田に行ったり、あるいは大河原に来たり、あるいは村田に行ったりとかという、そういう人の集まり方といいますか引き込み方といいますか、一律じゃないと思うんです。不特定多数、大きなジャパンレベルでの人たちを集める、来ていただくというものと、それから域内、いわゆる仙南地区なり宮城県の人たちにおいていただくのと。例えば作並に行ったら、その足で白石の城下の部分を回ってもらおうとか、あるいは村田のほうに行って蔵の町を見てもらうとか、そういうPRというのはおのおの違うと思うんです。だから、そこら辺を仕分けしたホームページなりというもの、あるいは媒体なりをつくっていった味つけを考えていくというのが、通年観光ということを考えたときに大事なことじゃないかなと思っています。

○委員 今の通年観光に関する件でちょっと教えてほしいんですけども、7ページのほうに新しい人の流れをつくるのところで大河原への来訪者を呼び込む、通年観光に向けた観光資源の研究と地場産品ということで、特に「まちの宝探し」に関してですが、これが観光資源の発掘を5年間かけてやると。既存のものもあるし、新しく作り出したものがあるんですが、5年間かけて取り組む、これでは物足りないような気がしたんです。例えば、その右の欄に20年以降の取り組み施策が出ていますが、その中で例えば、④の既存民間施設の活性化推進とあるんですが、これは20年以降でないとかこれに取り組めないというものではなくて、上のほうの掘り起こしをしながら、既存民間施設でも動き出しているものはあるわけですよね。それをなんです、これは今すぐにでも取り上げて、町全体に広げていくということも可能だと思いますので、年でぶちっと区切って、これは20年以降というふうにしなくて、これと並行してこれも取り組んでいくという形も必要なんではないかなというふうに思います。

○事務局 わかりました。2019年度内の方向性にも加えまして、内部でちょっと検討してみた

いと思います。

○委員 新名物ということで、新でもないんですけれども、さくらっきーについて、なかなか消極的な現状なのかなと思っていて、着ぐるみもあるんですけども余り完成はされていないような、例えば小学校や保育園とか。ここにも時々呼ばれるけれども、もうちょっと活用できるのかなとか、売り場も役場さんの3階の一部で売られているんですけども、意外と売られていなくて、どこで売っているのか聞かれたりもしていて、その辺の情報発信ができたらいいなと思っています。ブログもあるんですけども、町のホームページを開けても、どこにあるのかわかりづらい。マークがないんですよ、さくらっきーの。観光物産協会ということなんで、ちょっとわかりづらいなと思っていて、自分はずっとキャラクタービジネスの世界にいたので、もっと活用すれば売り上げも上がるし、キャラクター好きな方はやっぱり好きなので、ちょっと物足りないかなと考えています。よろしくお願いします。

○事務局 CMとかいろいろ出て、めいめいに。大河原町のメインとしても出ていただいているところもあったので、やっぱりその部分をもっと定着するほうが確かにいいと思います。

○委員 企業誘致なんかも多分各自治体とも結構力を入れてやっているような状況だと思うんですけども、大河原、白石のハローワークの状況を見ますと、県では大体1.2倍ぐらいの求人がありますけれども、仙南地域は1倍にも満たない、0.6、0.7ぐらいが大体通年で推移している現状なのかなというふうに思っています。

そうしたときに、企業なんかは中途採用なんかでも結構募集はしていますけれども、なかなか働き手がないという現状。ただ、片や、働きたい人も結構いるわけです。アンマッチがその中でできているような状況ですので、若干今の若い人たちのちょっと考えを聞くと、やっぱり我々の世代とも違って、働き方も結構多様化していますし、働きたい業種もかなり多様化している。結構仙南も工場なんかは多いんですけども、なかなか工場で働く人たちがだんだん少なくなってきた。企業も求人に対してはかなり苦勞しているというような状況も二、三聞こえてきている部分がございます。

そういった意味では、仙北のほうに潤沢な資本が来たように、核となる企業を、やっぱり大河原だけじゃなくてこの仙南地域全体としてやっぱり見ながら、県なんかともやっぱりしっかり連携しながら、そういった核となる企業を誘致して、それで、ご存じのように、一つのトヨタの関連企業でいくとやっぱり何十社もやっぱり宮城県に進出してきている現状があります。それを各自治体のほうで、うまく企業誘致もしながら、定住も考えながらということでやっていかないと、やっぱり2060年、今後45年先を見たときに、大河原町2万人の人口をきちんと把

握しようというか固めようというのが目標ですから、我々の2世代後ぐらいの若い人たちがやっぱり町に残るとというのが一つの最終的な目標になっていると思いますので、しっかりとこういった安定した企業をしっかりと仙南の中に誘致してくるということがまず一つ大事なのかなという部分があります。

そういった意味では、大河原に企業を誘致しなくても住んでもらえばいい話なんで、そこはきちんと近隣の市町なんかとも、これは広域的にやっぱり連携していかないといけないし、あと道路なんかでもアクセスの整備なんかもやっぱり一つ大切なのかなというふうな部分もありますので、そういった部分では、しっかりとまず雇用をしながら、安定就労して生活をしっかりとさせるというのが一つの大事なことなのかなというふうに思っていますので、仙南地域のもうちょっと求人率なんかもちょっと上げていければというふうに、施策も大変やっぱり重要なのかなというふうに思っています。

やっぱりいろんな、2市7町だったら2市7町でも結構ですし、やはり4市9町の中で話をされていくのであればそれでも結構だと思いますので、もうちょっとそういった部分では広く深くということで検討いただければというふうに思っています。

○委員 企業誘致は当然、ここにあげたのでいいと思うんですけども、前回も言ったと思うんですけども、町の人々の動きに対する支援というのが入っていないので、やっぱり安定雇用といけば、地元の企業から雇用を出してもらおうというのが一番いいと思うんです。住んでいる方も何やっている会社だと非常にわかりやすいですし。そこを前回もお話しましたけれども、やはり町が出せるお金については、できるだけ地元の企業を優先していくという方向でお金の使い方を考えられたほうがいいかなと思います。それについても、今おっしゃった2市7町、通える範囲内の会社は地元の企業だという考えのもとに、今後のお金の使い方というのを考えられたほうがいいかなと思います。

企業誘致は非常に即効性があるって非常にいいと思うんですけども、先ほどおっしゃっていたようにミスマッチがあって、ハローワークの方もおっしゃっていますけれども、大体事務職を希望される方が非常に多いんですけども、工場だとミスマッチだという形なので、既存の地元企業であれば、ふやしていくとそういう職種も出てくるのではないかなというふうに思いますし、景気動向によっては、郡山のパナソニックが工場を半分に減らしたからということで、一気に離職者がふえて非常に問題になったという経緯もありますし、そういう意味では、本当に地元を根を張っている企業に対するいろんな施策を盛り込んでいければ、安定雇用につながって、定住にも寄与するんじゃないかなというふうに思うので、よろしく。

○尾形会長 企業誘致、もちろん工場なりそういうもの、企業に進出してほしいということは当然のこととして、それに関する住民、生活者、その方々もふえてほしいという、そういうこともあるわけです、言ってみれば、企業の物理的なものを運ぶのを持ってくるというだけじゃなくて、それに対するソフトウェアだと思うんです。ここら辺のことを本当に真剣にこういうテーマに取り組んでいく必要があるということだと思いますので。

それでは、3ページのしごとをつくり、安心して暮らせるようにする、そして新しい人の流れをつくるということについての意見交換はこの辺で終わりにいたしまして、4ページの基本目標、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、方向性として、取り組みの部分、これについて意見とか、何でも結構でございますから、ご意見をお出しいただきたい。質問でももちろん結構でございます。よろしくどうぞ。

○委員 安心して出産・子供が健やかに育つための支援の7番目、3世代同居住宅の新築・増築等の助成整備とありますけれども、最近よく耳にするところで、子供を預けないとやっぱり働けないという形なんで、3世代となっている。いわゆる同居じゃなくて、近接、近くに住むという形が多いというふうに聞いています。

また、特にお母さんの側の親の近くに住みたいということも非常に要求が強いという話を聞いているので、これは3世代同居ではなくて、近くに住む人に対する助成をするのもいいかなと。それによって住む場所、近くであればいいので、多分車で行ける範囲であれば預けられるところだと思うので、ある不動産屋さんの話があって、そういう住宅の施策があるところで近接の自治体のほうに移ってしまったというケースが実際に、アパートとか今戸建てを持っていない方が子供ができたので戸建てを買おう、移ろうと思ったときに、できるだけ母親の近くのところで、それなりの住宅の手当をされている自治体のところに実際に住まわれているというケースがあるということなので、その不動産屋さんは、自分の町もそういう政策をしてほしいという話をされていた。

いろんな制度が実際あっても、なかなか許認可が下りにくかったりとかするというので、そのところをもうちょっとスムーズにしてもらえば、新たな制度資金がなくても、そこは障壁になっている、許可が下りにくい、隣の自治体の不動産屋のほうではすぐに宅地開発とかスムーズに進む、それだけで条件が違うので移ってしまうというところがあるという話があったので、それも含めて、庁舎内についてもこれに向けて事務手続の簡素化とか、そういうことを積むだけで、金を出さなくても住宅ができたりするんでないかなというふうに思ったんですけども、いかがでしょうか。

○事務局 ほかの市町村も行っているのも考慮して、同居・近居も入っている中身の制度も参考にはさせていただいておりますけれども、今のところ、大河原町として同居を選ばせてもらっている関係は、確かに近居であれば、やっぱりそこに住んで子供を預けて働きやすくなるという環境はでき上がると思いますので、そこもやはり検討させていただきたいと思います。

○委員 今のお話なんですけれども、やはり私の保育園のほうでも、金ケ瀬という地区にあるもんですから、同居世帯が今まではうんと多かったんです。でも、近年、同居世帯は本当に少なくなりまして、核家族のほうが多くなっております。やはり、実際お話しいただいたように、小学校に上がるのを機会にお家を買うことになる。金ケ瀬にどんどんアパートができてきましたので、そちらのほうに移ってきて、ご実家の近くで。あとは、小学校が終わったらおばあちゃん家に帰っていくとかというような、利便性を考えながら、どんどんやはり広表地区が開発とともに広まってきているというのは、事実あります。

やはり、おばあちゃんの家同居したくないという方も多く、近くに住んで見ていただきたいなという方のほうが。おじいちゃん、おばあちゃんもそのほうがお互いにいいみたいです。近くにいて見てあげると、一緒に住むよりもというので、先ほどのお話のように、そういうの方にも助成などいただければ、もっともっと若い世代が。

今、仕事に就いても、途中でリストラされたりとか、お給料がダウンして支払えないというようなことで、せっかく求めたおうちも手放して引っ越していかれるという方も意外に多くなってきておりますので、その辺も。

近くにおじいちゃん、おばあちゃんが住んでいらっしゃると、児童クラブを利用しなくても、2キロ以内の方はおじいちゃん、おばあちゃんのお住まいで子供さんを見られるということであれば、児童クラブに入れられないというのがあるのです。そうすると、児童クラブの定員に対しても歯どめもきくところもあるのかなというふうに思っております。

○尾形会長 よく外国ではスーパの冷めない距離に一つの第二のあれをつくるといいますか、それは昔からありますよね。

○委員 私は、このページは、一番最重点でやってほしいと思ったのは、7番、安心して出産しというところだと思うんです。いわゆる公共施設を祝日休日なんかも開放してほしいという。私の近くだとプラザというのがありまして、たまたま職員の休みの関係などもあって、休日とかは開放していないんです。ちょっとした小さな体育館ぐらいのスペースもあるし、飛んだり跳ねたりするのに本当にいい場所なんですけれども、ぜひこれはやっていただければ本当にいいなと思っていました。確かに公園なんかで親子で遊ぶというのがいいんですけれども、た

だ一つちょっと心配というか、実は学校現場でも土曜日が週休2日で休みなんですけれども、いわゆる土曜日でも学校に行きたい、学校に行かせたいというお子さんたちのために、学校を開けるということをしたんです。ただ、開けっ放しで、さあ、どうぞというわけにいかないの、結局、誰かが来て見ているというふうにしないとイケなかった。

だから、このタイトルだけ見ると非常に大賛成、すぐやってほしいと思うんですが、いざやるとなると、子ども家庭課さんが管理しているようなんですけれども、果たして職員だけで遊んだりなんかするのを管理しているかどうかとか、あるいはそういう考えじゃなくて、もっと別なボランティアの方なりに頼んだりとか、どこまでの範囲で子供たちの行動をコントロールしていったらいいのかとか、あとは今クレームをつける方が多いので、その中で例えばけがしたとか何かとなってきたときの対応なんかも、どうしてくれるかというあたりをやっぱり体制を整えないと、一旦オープンしてからでは何か起きてしまってからではどうしようもないというふうになってしまいますので、ぜひ開放してほしいですが、いろんな、さっき言った役場の方も本当に手いっぱいというか、これ以上、また動員かけるのも気の毒だし、かといって地域の方の教育というの、簡単に呼びかけて、さあ、どうぞと、みんな手を挙げてうまくいくともまず考えられないので、ちょっと長い時間がかかるかもしれませんが、やっぱりそういうマンパワーが不足している部門、先ほどのページもあったんですけれども、通年観光なんかで結局やっぱり担当者といろんな観光物産協会の方だけでは絶対うまくいかないの、そこにどういうふうにボランティアさんというか、呼んだらすぐに動員できるか、そういう体制なんかも本当に真剣になって考えていかないと、いろんな施策は出るんだけど、結局ふたを開けたら本当にスタッフがいなくてどうにもならないとなってしまうと、あるいは本当にいつも役場の人とか、限られた人だけがいつも汗かいて、結局途中でなくなってしまったというのがあるので、ぜひその辺のところを考えながら、ただ、土日開校というのは、皆さん、地域の方にお話を聞いても、本当に聞いてくれたらいいのにといい声はたくさん聞いているので、よろしくをお願いします。

○尾形会長　これは公共施設の管理運営の面が一つあるんでしょう。例えば、早い話が、ずっとある公共施設の職員がそれに当たるとか。例えば公民館長だなんていうのは、れっきとしたあれですよ、役場の方ですよ。だから、そういう管理運営のあり方が基本的にあって、そういう場所の管理運営をアウトソーシングして、それを受けたところでどういうふうにそれを運営していくかといいますか、そういうところまで広げていけば可能なんだろうけれども、役場の人ばかり常駐しているとなれば、超過勤務の問題が出てきたり、いろんな問題が出てく

るから、管理運営の問題をどうするかということとあわせて、今の先生の提案といいますか、それを受けとめていただきたいと思います。

○委員 今の話なんですけれども、小学生も一緒に遊べるようにしていただきたいなと思っていて、今小学生は支援センターでは遊べないというのが現状でありますので、例えば土日、旦那さんが仕事でお母さんが小さい子と小学生をつれていく場がない、もう疲れてしまって家から出ないみたいな感じになってしまいます。小さい子も遊べるし、お兄ちゃん、お姉ちゃんも一緒に遊べる場所があったらいいなと思っているんですけれども。例えばシティホールのほう、お話ありましたけれども、ボールを持ち込んで遊んでいいとか、ちょっとした工作イベントがあるとか、例えば、月1回お年寄りが来て将棋を教えてくれるとかはわからないですけれども、小学生も一緒に行って、小さい子は支援センターのほうで遊べるみたいな、それでお年寄りの方も一緒に何かできるように。ボランティアになるのかわからないですけれども、そういった場ができてほしいと思います。

○委員 いきいきプラザというのは元は世代交流センターで、それがなくなったかわりにできたので、ぜひ今のお話のように、結構時間のあるお年寄りはいるので、やっぱり生きがいだとか動機づけしてやるともっと人生豊かになるはずですよ。お互いに、子供も喜んでいるし、大人というか、その人たちも面倒見てあげることによっていい時間が過ごせたということになれば、両方いいわけじゃないですか。ほかに頼んで会社が来てお金を払ってやるというようなのでなくて、何かもう少し地域の人たちの力を活用できる形、またそのための世代交流センターだったはずなんです。

○事務局 今の公共施設の利用ということなんですけれども、そのほかの部分で民間活力というか、民間活力の活用というところが何か所か出てきています。前々から役場の方のマンパワーが足りないということもありますし、そうなれば当然に町では運営ができませんので、民間に委託せざるを得なくなるということにも思われますので、その辺は前向きに、先ほど会長からもありました、アウトソーシングを検討していく必要があるのかなと思います。

震災以降、いろんな地方で大きな箱物が復興という意味合いのもとから再考されていますけれども、そういったところにおいても、民間の仕組みを活用したり、公共機関と民間が共同して運営したり、そういった施設もどんどんでき上がってきていますので、そういったところも手本にしながら、規模の大小はあるかと思いますが、活用していくのも一つではないかなと思っています。

○尾形会長 今、町の公共施設で、運営管理を民間に委託している施設というのはありますか。

○事務局 体育施設、あと、デイサービスセンターを社会福祉法人のほうにという部分はございますが、ほかの部分ですと、福祉作業所の委託、指定管理というのがございます。

○尾形会長 それでは、4ページのほうの若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるを終わらしまして、5ページの時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るというページ、この具体的な施策と取り組み内容、あるいは具体的な施策について、提言、ご意見、質問をお受けしたいと思います。

○委員 ここが一番下のほうの大河原大学というのは、文化講座を実際に学べるのでしょうか。

○事務局 今までの実践講座とか、そういう公民館とかで行っている市民の講座ではなくて、地域課題とか行政課題という部分で不足している部分、皆さん、住民の方もそういう担い手とか協力をいただけるように、いただく部分で、一緒につくっていくというイメージを持っているんですけれども。その中でやっぱり一番先に出ている観光ボランティアとか、また文化財の案内をしていただける方とかもありますし、また地域内の安否確認とか、また何かしら地域で不足している、また課題となっているという部分をみんなで補っていきましょうということもあっていいと思っています。ただ、今の部分の知識を知っていらっしゃる方、またノウハウを知っていらっしゃる方が次の世代に行かないのがやはり損失なものですから、そういう部分も含めまして、そういう集中的に知識を得られる、ノウハウも得られる、またそれによって地域にも貢献できるという部分も出てきていただけないかなという意味合いの大学かなと思っています。

○金井副会長 何か、具体的な取り組み例の中身を見ていると、シチズンシップのような、市民性を育てていくというようなシチズンシップ大学なのかなという感じがしていて、結構シチズンシップというと学校教育ですごく重視されてはいますけれども、町として、行政の市民を育てていくというのって物すごく斬新で、余りほかに聞いたことがないので、これがシチズンシップをふやせる大学として、例えば先ほどのある施設の土日を開放するときの担い手をそこで育てるとか、介護とかをここで育てるとか、そういったこれから総合戦略の土台として動いてくれる人々を全てここで育てていくというようなほうが、むしろ全体のデザインが描きやすいんじゃないのかなという感じがしていて。であれば、どちらかというと、生涯学習課が担ったほうがいいのかとちょっと思ったりもしたんですけれども。それは企画財政課への批判ではないんですけれども。

ただ、内容的にやっぱり、ここに例えば、大人だけではなくて、小中学校の行事の一環に入れてもいいと思うんです。ここで例えば研修みたいな、ワークショップというんですか、そう

いった形で次世代の町政を担っていくようなことを学んでいくために、例えば1日ここである講習を受けるとか、例えばその中に1日の中でいろんなコースを設けて、例えば介護に興味がある人は介護コースに行って講師の方にいろいろ教わるとか、そういった形で、総合戦略の土台を支える大学になるんじゃないかなと思うので、もっと中身を充実させてもいいんじゃないのかなというふうに感じました。

○事務局 そういう含み、理想というか、この総合戦略で掲げている結婚、介護予防、健康増進と、幅広くという意味で、総合戦略を支えるような形も必要かなと思っています。また、そういう住民の方もやっぱり底上げするというか、そういう部分で、いろんな方に会ったり、いろんな体験をしたりして刺激を得て、住民の方が大きく視野を持った上でまた何かしらに動いていただけるということができれば確かに理想的であって、そういう核になる部分があると。

そういう部分も含めて、今回につきましては準備、そういう部分で練って、そういう部分を構築できればなということだったものですから、まだ勉強不足なもので、この辺かなという形にしかちょっとしていませんけれども。

○金井副会長 恐らくこの大学に参加された方が、今度は後のこの大学の講師役になっていくということが一番の理想かなと思うんです。なので、ここでシチズンシップというか市民性を身につけた人が今度は講師役として次の市民性を育てていくという、そのよい循環をこの大学の構想の中で具体化できたらすごく素敵だなと感じました。

○事務局 いろいろ道筋を詰めていきたいと思いますので、ありがとうございます。

○委員 今の内容と関連して、普通ならボランティア養成講座とかという公民館か何かで呼びかけて、それで例えば介護の養成講座なら養成講座で、やりたいという人が集まってくるという。またあるときは別の何々の養成講座とかというふうにやって、いわゆる単発的にいろんな課がばらばら出してきた。大学という名前がちょっと、自分最初ちょっと違和感あったんですけども、大河原大学観光学部とかしてしまえば、観光ガイドさんの必要な技術なり何なりをそこで講座的に取り組み、あと介護なら福祉学部なり、非常にイメージ化しやすいし、しかも大河原大学という一つ束になっていれば、さっき言った単発的なところでやるボランティア養成講座とかと違って、いつも大河原大学というくくりをもって必要な人材というか、その人たちがリストアップできるというふうになっていくので、さっき言ったちょっといろんな仕事をやっていて、本当に聞いてみたい人を何とか巻き込んでという、そういう具体的な方向というか、戦略として。ただ、名前がちょっと、大河原大学というのが。かといって、ボランティア養成講座とかとしてしまうと、これまただめになってしまうので。何とか人の集まりがあるよ

うなもので、なおかつそういうふういろんな分野を取り込むというのができればいいなど。

○尾形会長 今、お二方から大河原大学開校準備研究、これは非常に結構な提言だと思うんです。地方創生の問題、課題で、まち・ひと・しごと、3つあるわけですがけれども、恐らくどこの自治体でも、仮にこれをつくろうとすると、この戦略をつくろうとすると、一番問題は人の創生だと思うんです。今たまたまお二方からご指摘がありましたけれども、大河原大学とか市民教室とか何とかというそういうださい名前ではなくて、もっと現代的なあれで、結局人材を育成するといいますか、そういう観点からこれを一つ大きなテーマといいますか、くくりになるべき課題だと思う。今のお二方、恐らくほかの方々もそういう共感があると思うんですけれども、やっぱり人材育成、ひと創生というテーマから見たときに、一つの実現可能な施策というのはこれじゃないかと思うんです。それ以外にひと創生の具体的施策というのはなかなか出てこないような気がするんです。ですから、これを事務局でももう少し大きな観点からテーマとして捉えられた課題という形でこれにお取り組みいただきたい。

私、お二方のお話を聞いていて、何も大河原の人ばかりじゃなくて、ほかの村田からでも船岡からでもそういう受け皿といいますか、そういうものがあるとすれば、それを聞きに来るとかということだって発展的に、成長といいますか、それが可能じゃないかと思うんです。そうすると、大河原町の存在というのは非常にパフォーマンスとしても非常に大きくなると思うんです。ぜひ、ひと創生の部分のくくりで、これを大事にお取り扱いいただければと思いますが、よろしく願いいたします。

○委員 5ページの中に地域という言葉が何か所かに出てきているのですが、地域のいわゆるどの域を地域と捉えるかなんですが、町全体を地域とするのか、あるいは行政区単位の地域にするか。でも、いろいろなところで地域で取り組むということが出されてくるけれども、余り実績が上がっていない、なんか進まないのが現状ではないかなという気がするんです。ですから、この場合の地域はここを捉えている、範囲をこういうふうに捉えるんだということがはっきりしないと、一番最小単位が地域のいわゆる隣近所、隣組、ここが例えば高齢者見守りとか世話役とか、そういうことを確実にしていくとすれば、小さい単位で地域と捉えて、そしてお互いに助け合いするということも必要なのではないかなという気がしますので、この場合の地域はこれだということをはっきり示しておいたほうが良いような気がします。

○事務局 今回のプロジェクトから上がった原案に関しては、全体的な町を地域として見た中で協力を得られる方という、サポーターとか見守りというネットワークをつくるという意味合いの地域を書かせていただきましたが、実際的にはやはり狭い地域の中での助け合いという部

分の中には、何かしら含めた部分も必要かなとは思っています。ただ、施策として、課とつなぎ合わせてしまっている時点で全体的な町をイメージさせていただいたので、全体的にはなつてしまったんですが。

○委員 言葉の使い分けをしたらいんじゃないですか。近隣とか町内、あるいは圏域とか県南とかというふうに、必要に応じて、項目の中で。本当に近くの人たちが構成するという地域だったら近隣地域のほうがいいし、これは普通に考える町内の地域だと町内。それを全部地域地域とやっちゃうと、隣近所もみんな同じになってしまうのでという指摘だと思います。そういうふういきちと色分けできるものについては、言葉でもって使い分けしておけば。

○金井副会長 恐らく地域で優先な絆としてのコミュニティということを想定した部分もどこかにもあるのかもしれないので、概念といたらあれですけども、何を想定してのこの施策なのかというのは確かに具体的にすっきりしているとわかりやすいかなとは思っています。

○事務局 真ん中のエリアのところは地域を使っているのが多いんですが、在宅介護とか在宅の高齢者の見守りというのは、地域で支え合うという部分がよく使われているんですけども、そういう部分の見守り合いというのはあつての、名前をやっぱり地域を入れて活用しているところなんです。

○委員 例えば、高齢のひとり暮らしの人は、もちろんすぐ隣近所の人にも気にして、借家の人だったら大家さんも気にかけてみたりとか、あともうちょっと広がって同じ市内とか、その人中で仲よしの友達のほうも見にいったりするとかもあるし、そのほかいろんな包括支援センターの人とか民生委員とか、いろんな人がやっぱりかかわっているのです。だから、同じ地域とかといつてもやっぱりその違いはあると思うし。あと、やっぱり、何ともかんと、明らかに言つて見れば、それは本当に地域。

○事務局 それにつきましては、在宅で暮らし続けるための体制づくりで、②のところの地域支援者、本当に近隣の支援者という言い方に多分なつてくるんだとは思っています。そういう部分、ちょっと直せる部分については直させていただきながらやっていきたいと思っています。

○尾形会長 それでは、5ページの施策につきましてもこの程度で終わります。6ページ、地域と地域を連携する、広域連携により施策形成を図るとか、こういう具体的なところが出ておりますけれども、この点について提言、意見、あるいは質問、お願いしたいと思っています。

○委員 ちょっと風邪気味で聞き取りにくい点についてはちょっとご容赦ください。

7番目の環境政策を進める、広域的組織の整備の検討ということで、当町につきましては調整、覚書で案内されているんですが、みやぎ県南水素エネルギープロジェクト協議会の事務局

とのことで、これに基づいて東京の中央にも、創生大臣に陳情に行ったというような経過が述べられていますので、皆さん方も耳にしたかとは思いますが、その中で、エネルギーの第6次産業及び再生可能エネルギーも考えているというふうな、町長所感としての意見ということで、具体的に今回の創生会議等についてもきちっとこういうふうに述べられているものですから、前段の企業誘致のかかわりも含めて、現行、みやぎ県南水素エネルギープロジェクト協議会そのものの現行の動き、内容等について、個別に承知していないものから、承知している範囲でご紹介いただくことと、あと、より意識的に今回の企業誘致に関しての積極性をもってそういうことについて、企業についての選定作業を行っているのか、あるいはこれから行う予定があるのか、あるいは企業誘致そのものについては相手方もあるものから、相手方もある中で、今後の誘致計画の中で、そういう当町としての、あるいはブロック、2市7町の地域としての今後の協議会としての方針として、方針と、あと市町村との協議会との連携がどういうふうになっているかということを含めてお聞かせいただきたいということが一つ。

あと、私自身の認識では、来年、電力そのものが小売を自由化されるというふうに認識しているんです。具体的な、小売そのものをする際の宣伝広告がまだ具体的にされていないということになっているものから、それぞれ、再生可能エネルギーとして誘致した場合、ユーザー一人一人がそれぞれの電力を選択する時代になるものから、そういったユーザーに即した選択肢を広げる意味で、ぜひそういう誘致を推進していただきたいという、一創生委員の希望としてお伝えするということです。

以上です。ちょっとわかりにくい。申しわけない。

○事務局（ ） みやぎ県南水素エネルギープロジェクト、これにつきましては、2市7町でやっているというわけではないです、まず初めに。大河原町と、あとはブルータワーといって水素をつくる会社、水素のプラントをつくる会社と、あとは木材を供給する森林組合、県南に3つだか4つあるけれども、森林組合さんが会員となって、今水素をつくるための方法、または原材料の供給方法等について協議しているところです。

具体的にまだどうにもなっていないんですけども、基本的には、大河原町内にプラントをつくって、そこで水素を発生させて、その水素をFCVTなど燃料電池自動車に供給していたり、または家庭用燃料電池という水素電力電池があるんですけども、普通のLPガスを水素にかえるような形でガスタービンを回すような形になっているんですけども、それを水素だけでつくれる燃料電池を各家庭につくっていただいて、そこにも協力していきましょうとかという発想があります。

ただ、なかなか木材の供給体制とかいろいろな部分があって、ちょっとなかなか今進んでいない状況ですけども、そういう構想が今あるというところで、先ほど言ったように2市7町が取り組んでいるという話ではなくて、あくまでも大河原町と森林組合さんとプラントの製造会社さんというところで今やっている最中というところでございます。

○尾形会長 電力小売の関係についての情報といいますかPRといいますか。

○事務局 そういうプロジェクトチームをつくるという大河原町の意味を持つという前提で、今回の企業誘致に関してのかかわりで、今初めて。そういう企業体そのものがある意味で誘致的な形、誘致されている企業、既存の企業でしょうから。

基本的には、今考えられるのは、仙南地域のどこでもいいですけども、そこで新しい会社をつくる。その特定目的のやつ、SPCというんですけども。特定目的会社をつくっていただいて、そこで民間からの出資、あとは銀行からの借り入れ等々で資金をまずつくって、その資金でプラントをつくって、そこであと材料とか供給を受けながらプラントを稼働させて売電するなり、先ほど言ったような水素を売ったりというふうな形をやっていこうという会社です。それはまだできていません。なかなか金額的にも結構大きな金額になるようで、1億2億という単位よりもう一つ上の単位の事業費がかかるということなので、特定目的会社をつくれるかどうか、出資がされるかどうかというところも当然出てくるかと思えますけれども。

○委員 あくまでも民間主導ということで、第三セクター的なものや町で融資・出資するということは。

○事務局 町は一切出資はしないという前提で今は動いています。あくまでも民間の方々の出資、または借り入れによって新しい会社をつくって、そこで運営していくと。

○委員 大河原町的なイメージでは、6次産業再生可能エネルギーを主体として、民間活力に基づいて再生エネルギーをするんだという主旨ですか。

○事務局 はい。6次産業化というのは、そのプラントをつくることによって、木材を供給しなければならない。木材を供給するのに、今の森林組合の人数では足りないんです。木を切ったり、搬出したり、いろいろする部分で。今でもパルプとかいろんなところに木材供給しておりますので、それ以上に今度使うようになりますから、それを供給するために今度人材が必要になってくるということで、人材の必要性、それを今度確保することによっての2次産業になって、今度売るということで3次産業ということで、6次産業というふうな形になったというふうなことです。

○委員 ある意味で、温暖化とか環境政策面では、今後、エネルギー施策の展望を開くような。

新聞紙上の範囲では気仙沼と山形でそういう水素の関係で立ち上がっているみたいなんですけれども、そういった大河原町を起点にぜひお願いしたいという趣旨の意見として、6ページのことについては、意見として優先順位的にはお願いしたいという立場で。

○尾形会長 最後の質問、電力自由化云々。

○事務局 電力自由化云々は、来年度、それぞれ我々一人一人ユーザーがやることであって、この場にそぐわないので、そういう状況があること。

○尾形会長 そのほかにございませつか。

じゃ、私からちょっと質問なんですけれども、ここのテーマというのは、いわゆる、表にもあるとおり、2市7町で施策の検討の場とありますけれども、事務局レベルでの話よりも、むしろ首長さんたちが、例えば通年観光の問題だって企業誘致の問題だって何でもそうだけれども、やっぱりまずG7じゃないけれども、そういうところでのコミュニケーションがあつて初めて、ここに書いてあるように、2市7町の施策の検討の場で協議という形になってくるんだろうと思うんです。問題は、こういうことが共通の認識に立つことが必要なんで、それがどういうふうにつくり上げていくかということだろうと思うんです、大事なことは。

ひとつそこら辺、もちろん事務局として書くとすればこういう書き方にしかないというのはよくわかりますけれども、問題はそういうところでのコミュニケーションというか、それがほかの面でもやっぱりないような気が住民としてしていますんで、やっぱりこの際、地域創生、及川先生の質問いただいたけれども、地域というのはくり方はいろいろあるわけだから、ここら辺ひとつ、首長、2市7町がそういう認識にまず立つと、その認識に基づいて2市7町で施策の検討の場をつくる、こういう順序ですよ、これは。そういう面を配慮させていただきたいと思います。

○事務局 町長は前から蔵王ブランドの開発ということで、仙南の各市町には声かけはしているようでございます。それに対して、各市町では、なかなかいいことですねということで、市町レベル、町長とかの上のレベルではそういう話なんですけれども、なかなかまだちょっとそこから突っ込んだところまではいっていないんですが、今後、多分どこの町でも地方総合戦略を立てる中で、こういうふうになるかどうかはまた別にいたしまして、地域との連携は必ずしないとなかなか、大河原町だけで頑張っても難しい部分が多々あるかと思つたので、多分これが全てではないと思つた。いろんな部分があつて、町との中でのやりとりがあるかと思つたんですけれども、その中で何か感じたということで多分いくのかなとは思つています。

○尾形会長 皆さん、本当に思つていらつしゃると思うんです。事務局でこういう施策の話し

合い、あの人たちなかなかできないですよ。やっぱり話しにくい首長さんもいるだろうけれども、そんなこと言っても始まらないので、やっぱりそういうところの一つの道筋といいますか、これから初めてこういう場ができる。ぜひ、これは大事なことから、ひとつお進めいただければと思います。

最後に、3ページから6ページまでできましたけれども、皆さん、いかがでございましょうか。言い忘れたと、(1)について言い忘れたというようなことについて、こういう点がちょっと聞きたいというような点がございましたら、最後にお出しいただければと思います。いかがでございましょうか。

○委員 全体の中での話ですけれども、先ほど言われた来年度の予算が半分補助となって持ち出しがあると言われたので、ほかでもよく言われているブランド化の中で、いわゆるふるさと納税の強化、そこがブランドと直結していくと思うんです、地域の商材起こしの裏で。私の案で前に言ったところが、桜に栈敷席をつくって、お弁当をセットにしたものをふるさと納税の中の特色として提供するというのも、物を売るのではなくて景色というんですか、そういうのを売るのもいいのかなと思ったりは個人的にしている、今一番売れているのはお米だというふうな話もありますけれども、大河原もお米もとれているでしょうし、積極的なふるさと納税とかを使うことで、さっき名所をつくっていくというものが、これの中で、実行していく中でも必要なことなんではないかなというふうに思うので、本当にびっくりするぐらい納税が集まっている地域も実際にあるので、できないことではないと、アイデア次第だと思うので、この地域にはブランドがないからというのではなくて、先ほどちょっとつくっていくというのも一つかなと思うので、その辺は検討されているか、ちょっと。

○尾形会長 それでは、本日本日予定いたしました会議を全て終了いたしましたので、最後に副会長にまとめをいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○金井副会長 皆様、本日は大変お疲れさまでございました。

本日は非常に具体的な案が大体はっきりと見える形になってきていましたので、皆さんからのご意見も非常に多様で、私のほうではまとめ切れませんので、きょうは簡潔に終わりたいなと思います。

本日は、皆様お集まりいただきまして、まことにありがとうございました。また次回、最後ということになりますので、何とぞ引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。